

(様式第 9)

番 号
平成 2 2 年 10 月 4 日

関東信越厚生局長 殿

開設者名 学校法人 日本医
理事長 赫 彰

日本医科大学付属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 2 1 年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照 (様式第 10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照 (様式第 11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	72	人
--------	----	---

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照 (様式第 12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照 (様式第 13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	442 人	107 人	459.7 人	看護補助者	60 人	診療エックス線技師	0 人
歯科医師	0 人	0 人	0. 人	理学療法士	8 人	臨床検査技師	93 人
薬剤師	50 人	0 人	50. 人	作業療法士	0 人	衛生検査技師	0 人
保健師	(164 人)	(2 人)	(164.3 人)	視能訓練士	5 人	その他	0 人
助産師	17 人	1 人	17.1 人	義肢装具士	0 人	あん摩マッサージ指圧師	6 人
看護師	973 人	7 人	975.2 人	臨床工学技士	17 人	医療社会事業従事者	(5 人)
准看護師	4 人	2 人	5.8 人	栄養士	5 人	その他の技術員	13 人
歯科衛生士	0 人	0 人	0. 人	歯科技工士	0 人	事務職員	138 人
管理栄養士	5 人	0 人	5. 人	診療放射線技師	60 人	その他の職員	59 人

看護師の員数は、保健師・助産師の員数を含む。事務職員の員数は、医療社会事業従事者の員数を含む。

- (注) 1 報告を行う当該年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数
歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	903 人	0 人	903 人
1日当たり平均外来患者数	2,189 人	0 人	2,189 人
1日当たり平均調剤数		10,838 剤	

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	114人
膝疾患に対する腹腔鏡補助下膝切除術	5人
経頸静脈的肝内門脈大循環短絡術	11人
骨髄細胞移植による血管新生療法	7人
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術(白内障に係るものに限る)	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	37人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	修正型通電療法	取扱患者数	560人
当該医療技術の概要 修正型通電療法は全身麻酔下でパルス波治療器を用いて電極シールを両側額部に貼り、交流電流を通電することで脳神経細胞を刺激し、うつ病や緊張病などの病状を改善させる治療法である。都内でも有数の治療歴があり中高年の身体合併症のある患者に積極的に使用し、高い改善率が見られている。			
医療技術名	コンサルテーション・リエゾンサービス	取扱患者数	月平均80人
当該医療技術の概要 精神神経科と一般身体科が連携し、入院中の患者の精神科的問題(不眠、抑うつ、せん妄など)を専属のスタッフが中心となり、月平均80人治療介入、心理的アプローチを行っている。			
医療技術名	高度救命救急センターに対する自殺企図者への介入	取扱患者数	220人
当該医療技術の概要 高度救命救急センターに自殺企図で搬送された患者の精神医学的問題について専任の医師、心理士、福祉士が診察にあたり、心理的介入や薬物療法を行い、再自殺企図を減らす試みを行っている。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	31人	・膿疱性乾癬	2人
・多発性硬化症	33人	・広範脊柱管狭窄症	6人
・重症筋無力症	50人	・原発性胆汁性肝硬変	30人
・全身性エリテマトーデス	94人	・重症急性膵炎	8人
・スモン	2人	・特発性大腿骨頭壊死症	24人
・再生不良性貧血	34人	・混合性結合組織病	20人
・サルコイドーシス	105人	・原発性免疫不全症候群	0人
・筋萎縮性側索硬化症	11人	・特発性間質性肺炎	27人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	88人	・網膜色素変性症	13人
・特発性血小板減少性紫斑病	64人	・プリオン病	1人
・結節性動脈周囲炎	10人	・肺動脈性肺高血圧症	0人
・潰瘍性大腸炎	95人	・神経線維腫症	3人
・大動脈炎症候群	16人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	13人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	2人
・天疱瘡	17人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	0人
・脊髄小脳変性症	30人	・ライソゾーム病	3人
・クローン病	40人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	49人	・脊髄性筋萎縮症	3人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	62人	・球脊髄性筋萎縮症	1人
・アミロイドーシス	5人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	17人
・後縦靭帯骨化症	16人	・肥大型心筋症	2人
・ハンチントン病	1人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	16人	・ミトコンドリア病	0人
・ウェゲナー肉芽腫症	6人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	0人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	63人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	16人	・黄色靭帯骨化症	0人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	38人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・画像支援ナビゲーションによる内視鏡下鼻内副鼻腔手術	・
・乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	1ヶ月に5回程度
部 検 の 状 況	部検症例数 62 例 / 部検率 8.0%

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ヒトにおける虚血プレコンディショニングの心筋保護効果の機序に関する検討	高野 仁司	一般・循環器・ 肝臓内科・再生 医療科	156 万	(補) 文部科学省 委
難治性血管炎に対する新規治療法開発	高木 元	一般・循環器・ 肝臓内科・再生 医療科	143 万	(補) 文部科学省 委
低侵襲型血管新生治療法確立のための臨床研究	太良 修平	一般・循環器・ 肝臓内科・再生 医療科	156 万	(補) 文部科学省 委
脳虚血後における新規脳保護薬・骨髄細胞移植併用の神経再生増強効果の研究	片山 泰朗	神経・腎臓内科	104 万	(補) 文部科学省 委
慢性腎臓病(CKD)患者の医療機関へのアクセスに係わる因子とCKD 進行への影響	飯野 靖彦	神経・腎臓内科	82 万	補 (委) 東京都
軽度認知障害の原因疾患としての海馬硬化性認知症の臨床・分子病理学的研究	山崎 峰雄	神経・腎臓内科	117 万	(補) 文部科学省 委
血糖値改善効果を有する桑葉食品の開発と事業化	及川 眞一	血液・内分泌代謝・ 消化器内科	300 万	補 (委) 文部科学省
米糠トコトリエノールによる血管新生病予防に関するヒト臨床試験	及川 眞一	血液・内分泌代謝・ 消化器内科	1,700 万	(補) 農林水産省 (委)
酸化ストレス応答とリン脂質酸化変性の意義-単球/マクロファージ接着亢進機序の解明	及川 眞一	血液・内分泌代謝・ 消化器内科	169 万	(補) 文部科学省 委
骨髄腫細胞の発現する補助刺激分子群(B7系分子など)とそのシグナル:病態への関与	田村 秀人	血液・消化器・ 内分泌代謝内科	117 万	(補) 文部科学省 委
MCP-1 を介した間葉系幹細胞による胃癌組織へのホーミング分子機構の解析	二神 生爾	血液・消化器・ 内分泌代謝内科	143 万	(補) 文部科学省 委

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
造血幹/前駆細胞の肺障害における役割並びに治療法応用への基礎的検討	阿部 信二	呼吸器内科	91万	補 委 文部科学省
シグナル情報解析を用いた肺癌分子標的治療感受性予測法の開発とイメージング	弦間 昭彦	呼吸器内科	234万	補 委 文部科学省
肺癌に対するマイクロRNAを用いた薬剤感受性予測と治療法の開発	清家 正博	呼吸器内科	312万	補 委 文部科学省
分子イメージングによる精神科治療法の科学的評価法の確立に関する研究	大久保 善朗	精神神経科	1,760万	補 委 厚生労働省
分子イメージングによる総合失調症のドーパミン神経伝達異常の解明	大久保 善朗	精神神経科	442万	補 委 文部科学省
うつ病の再発・難治化と脳の脆弱性について脳画像と神経栄養因子を用いた前方視研究	舘野 周	精神神経科	143万	補 委 文部科学省
MRIを用いた児童思春期うつ病における脳形態に関する前方視研究	齊藤 卓弥	精神神経科	117万	補 委 文部科学省
自殺予防対策のための効果的な医学教育法の開発	伊藤 敬雄	精神神経科	182万	補 委 文部科学省
側頭葉てんかんにおけるドーパミン受容体の変化と精神症状の関連に関するPET研究	一宮 哲哉	精神神経科	299万	補 委 文部科学省
人工骨髄の作成と白血病幹細胞のニッチの解析	植田 高弘	小児科	50万	補 委 公益信託白血病研究基金
上皮間葉相互作用を制御するシグナル経路におけるSox13の役割	長田 真一	皮膚科	195万	補 委 文部科学省
麻酔薬・麻酔法による体内遺伝子、蛋白、代謝物変動の総括的変動	坂本 篤裕	麻酔科	143万	補 委 文部科学省

小計 12 件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
難治性膵がんに対する革新的膵灌流療法システムの開発	村田 智	放射線科	611万	(補) 文部科学省 委
In vivo イメージングシステムを用いた膵癌実験モデルおよびその応用	内田 英二	消化器・乳腺・一般・移植外科	104万	(補) 文部科学省 委
小児生体肝移植後長期経過症例における移植肝加齢変化の解明ーテロメア長による検討	川野 陽一	消化器・乳腺・一般・移植外科	117万	(補) 文部科学省 委
食道扁平上皮癌におけるSnoNとmiRNAに関する分子生物学的解析	宮下 正夫	消化器・乳腺・一般・移植外科	195万	(補) 文部科学省 委
未熟心筋に対する常温下心筋保護の研究：ミトコンドリア保護の重要性とその臨床応用	井村 肇	内分泌・心臓血管・呼吸器外科	234万	(補) 文部科学省 委
Developing optimal cardio-protective techniques for children undergoing open heart surgery and establishing a close link between the Bristol Heart Institute and Nippon Medical School	Imura H	内分泌・心臓血管・呼吸器外科	60万	(補) DAIWA Foundation 委
左心房容量負荷モデルにおける肺静脈隔離の心房細動発生予防効果の検討	新田 隆	内分泌・心臓血管・呼吸器外科	104万	(補) 文部科学省 委
心房細動治療における除神経術：心内膜下自律神経ネットワークの解明	坂本 俊一郎	内分泌・心臓血管・呼吸器外科	234万	(補) 文部科学省 委
下垂体腺腫におけるmiRNA発現とmRNAの制御に関する研究	寺本 明	脳神経外科	897万	(補) 文部科学省 委
リアルタイムモニター花粉数の情報のあり方の研究と舌下ペプチド・アジュバンド療法の臨床研究	大久保 公裕	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	3,900万	(補) 厚生労働省 委
新しいリンパ瘻診断マーカーCTPの時空間的発現の検討	新藤 晋	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	140万	(補) 文部科学省 委

小計 11 件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ヒトにおける舌の反射性運動の発現と、その新しい臨床応用についての基礎的研究	三枝 英人	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科	65万	(補) 文部科学省 委
新規診断マーカーCTP を用いた難治性内耳疾患の多施設検討	池園 哲郎	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科	850万	(補) 厚生労働省 委
内耳疾患診断のバイオマーカーCTP-迅速検出法の開発と臨床応用	池園 哲郎	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科	195万	(補) 文部科学省 委
難治性好酸球性中耳炎における線維芽細胞の新たな役割の解明	酒主 敦子	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科	143万	(補) 文部科学省 委
鼻アレルギー発症機序における上皮細胞の新たな役割-T細胞、樹状細胞との相互作用	ルビー・ パワンカール	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科	299万	(補) 文部科学省 委
卵胞顆粒膜細胞に特異的なマイクロRNAの卵胞成熟における機能解析とその臨床応用	竹下 俊行	女性診療科・ 産科	130万	(補) 文部科学省 委
新規に同定された子宮内膜症関連遺伝子の発現様式の解析	明楽 重夫	女性診療科・ 産科	750万	補 (委) 文部科学省
妊娠中の肝機能異常における自己傷害性T細胞の関与の検討	市川 雅男	女性診療科・ 産科	91万	(補) 文部科学省 委
習慣流産患者における抗リン脂質抗体標的分子のプロテオミクス	峯 克也	女性診療科・ 産科	234万	(補) 文部科学省 委
生体組織由来極小胚性幹細胞様細胞の探索	水野 博司	形成外科・ 美容外科	160万	(補) 文部科学省 委
ビスフォスフォネート誘発顎骨壊死に対する幹細胞治療の開発	江浦 重義	形成外科・ 美容外科	182万	(補) 文部科学省 委
脂肪組織幹細胞と高気圧酸素併用療法による褥瘡治療研究	百束 比古	形成外科・ 美容外科	110万	(補) 文部科学省 委

小計 12 件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ショック後腸管リンパ液中に産生されるホスホリパーゼA2の臓器障害に対する影響	増野 智彦	高度救命救急センター	78万	補 委 文部科学省
救急・火災現場における経皮的二酸化炭素濃度測定の有効性－早期患者発見、安全な現場活動を目指して－	増野 智彦	高度救命救急センター	100万	補 委 救急振興財団
救急患者の搬送・受入実態と救急医療体制の評価に関する研究	横田 裕行	高度救命救急センター	360万	補 委 厚生労働省
ポテンシャルドナーを増やすための補助検査を用いた脳死判定に関する研究	横田 裕行	高度救命救急センター	130万	補 委 文部科学省
急性腸間膜虚血の腸管 VIABILITY 評価と救命率向上にむけた治療戦略の構築	白石 振一郎	高度救命救急センター	117万	補 委 文部科学省
脳代謝モニタリング・網羅的脳代謝解析に基づく心肺停止蘇生後の病態及び治療の研究	恩田 秀賢	高度救命救急センター	195万	補 委 文部科学省
アルファ2-アゴニスト・デスクメデトミジンの延髄呼吸中枢への作用メカニズムの解明	竹田 晋浩	集中治療室	117万	補 委 文部科学省
先端医科学研究に関する倫理的・法的・社会的課題についての調査研究	渡邊 淳	遺伝診療科	400万	補 委 文部科学省

小計 8 件

合計 54 件

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Journal of Cardiology	Novel neointimal formation over sirolimus-eluting stents identified by coronary angioscopy and optical coherence tomography	Murakami D	一般・循環器・ 肝臓内科・ 再生医療科
Pacing Clin Electrophysiol.	Proarrhythmic ECG Deterioration Caused by Myocardial Ischemia of the Conus Branch Artery in Patients with a Brugada ECG Pattern.	Ogano M	一般・循環器・ 肝臓内科・ 再生医療科
J Cardiol.	N-terminal pro-BNP is a novel biomarker for integrated cardiorenal burden and early risk stratification in patients admitted for cardiac emergency.	Yamashita T	一般・循環器・ 肝臓内科・ 再生医療科
J Cardiol	Longitudinal Doppler strain measurement for assessment of damaged and/or hibernating myocardium by dobutamine stress echocardiography in patients with old myocardial infarction	Fujimoto H	一般・循環器・ 肝臓内科・ 再生医療科
Int Heart J	Difference in neointimal proliferation between ruptured and non-ruptured segments after bare metal stent implantation.	Yokoyama S	一般・循環器・ 肝臓内科・ 再生医療科
JACC Cardiovasc Intev	Two cases of coronary stent thrombosis very late after bare-metal stenting	Takano M	一般・循環器・ 肝臓内科・ 再生医療科
J Am Coll Cardiol	Appearance of lipid-laden intima and neovascularization after implantation of bare-metal stents extended late-phase observation by intracoronary optical coherence tomography	Takano M	一般・循環器・ 肝臓内科・ 再生医療科
Int J Cardiol	Impact of small thrombus formation in restenotic bare-metal stent lesions associated with acute coronary syndrome: Identification by optical coherence tomography	Yamamoto M	一般・循環器・ 肝臓内科・ 再生医療科
J Nippon Med Sch	Detection of arrhythmogenic substrates in prior myocardial infarction patients with complete right bundle branch blocks QRS using wavelet-transformed ECG.	Murata H	一般・循環器・ 肝臓内科・ 再生医療科

小計 9 件

雜誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Circ Cardiovasc Interv	Extended follow-up by serial angiographic observation for bare-metal stents in native coronary arteries: from healing response to atherosclerotic transformation of neointima.	Yokoyama S	一般・循環器・ 肝臓内科・ 再生医療科
Circ J.	Coronary angiographic evaluation for serial changes of luminal appearance after pharmacological and catheter interventions.	Takano M	一般・循環器・ 肝臓内科・ 再生医療科
Int Heart J.	Noninvasive diagnosis of cardiac sarcoidosis using microvolt T-wave alternans.	Matsumoto S	一般・循環器・ 肝臓内科・ 再生医療科
J Nippon Med Sch	A case of myocardial infarction caused by coronary vasospasm: efficacy of soluble lectin-like oxidized LDL receptor-I for distinguishing between vasospasm and plaque rupture.	Kobayashi N	一般・循環器・ 肝臓内科・ 再生医療科
Circ J.	Solution for retention of female cardiologists: from the survey of gender differences in the work and life of cardiologists.	Tsukada Y	一般・循環器・ 肝臓内科・ 再生医療科
Intern Med.	Marked improvement of extensive atelectasis by unilateral application of the RTX respirator in elderly patients.	Kato K	一般・循環器・ 肝臓内科・ 再生医療科
Circ J.	Advanced neointimal growth is not associated with a low risk of in-stent thrombus. Optical coherence tomographic findings after first-generation drug-eluting stent implantation.	Murakami D	一般・循環器・ 肝臓内科・ 再生医療科
Pacing Clin Electrophysiol	The undetermined geometrical factors contributing to the transverse conduction block of the crista terminalis.	Morita N	一般・循環器・ 肝臓内科・ 再生医療科
Am Heart J.	Relationship between neointimal coverage of sirolimus-eluting stents and lesion characteristics: a study with serial coronary angiography.	Yamamoto M	一般・循環器・ 肝臓内科・ 再生医療科
Ther Apher Dial.	Efficacy of high-throughput leukocytapheresis for rheumatoid arthritis with a reduced response to infliximab.	Sakai Y	一般・循環器・ 肝臓内科・ 再生医療科

小計 10 件

雜 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
Int Heart J.	lipopolysaccharide induces atrial arrhythmogenesis via down-regulation of L-type Ca ²⁺ channel genes in rats	Okazaki R	一般・循環器・ 肝臓内科・ 再生医療科
J Nippon Med Sch	Sympathetic excitation during exercise as a cause of attenuated heart rate recovery in patients with myocardial infarction	Ushijima A	一般・循環器・ 肝臓内科・ 再生医療科
Int. J of Cardiol.	The effects of drug-eluting stentpolymer on measurement of strut thickness by optical coherence tomography;In-vitro comparison with bare-metal stent.	Mizuno M	一般・循環器・ 肝臓内科・ 再生医療科
J Nippon Med Sch	The Effect of Doxazosin Mesilate on Cerebral Blood Flow in Patients with Hypertension and Chronic Cerebral Infarction.	Usuda K	神経・腎臓内科
Cerebrovasc Dis	Nicergoline Increases Serum Substance P Levels in Patients with an Ischaemic Stroke.	Nishiyama Y	神経・腎臓内科
J Neuroimaging	Neuromyelitis optica preceded by brain demyelinating episode.	Amemiya S	神経・腎臓内科
J Neurol Sci.	Asymmetric dimethylarginine (ADMA) as a possible risk factor for ischemic stroke.	Nishiyama Y	神経・腎臓内科
J Neurol Sci.	Thrombosis in Japanese patients with Fabry disease.	Utumi K	神経・腎臓内科
Clin Exp Nephrol	Current status and issues of C1q nephropathy.	Mii A	神経・腎臓内科
Stroke	Effects of 0.6mg/kg intravenous alteplase on vascular and clinical outcome in middle cerebral artery occlusion.	Mori E	神経・腎臓内科
Cancer Sci.	Histone deacetylase inhibitor enhances sensitivity of non-small -cell lung cancer cells to 5-FU/S-1 via down-regulation of thymidylate synthase expression and up-regulation of p21 expression.	Noro R	呼吸器内科

小計 11 件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Intern Med.	Sleep apnea syndrome: central sleep apnea and pulmonary hypertension worsened during treatment with auto-CPAP, but improved by adaptive servo-ventilation.	Ono H	呼吸器内科
Geriatr GerontolINT.	Emphysema on imaging is associated with quality of life in elderly patients with chronic obstructive pulmonary disease.	Motohashi N	呼吸器内科
Respirology.	Differences in the clinical characteristics of Pneumocystis jirovecii pneumonia in immunocompromized patients with and without HIV infection.	Enomoto T	呼吸器内科
Proc Natl Acad Sci USA.	MiR-21 is an EGFR-regulated anti-apoptotic factor in lung cancer in never-smokers.	Seike M	呼吸器内科
J Nippon Med Sch.	Evaluation of the usefulness of spectral analysis of inspiratory lung sounds recorded with phonopneumography in patients with interstitial pneumonia.	Ono H	呼吸器内科
Intern Med.	Exacerbation of idiopathic interstitial pneumonias associated with lung cancer therapy.	Minegishi Y	呼吸器内科
総合病院精神医学	Yale 大学コンサルテーション・リエゾン精神医療の臨床と薬物療法	伊藤 敬雄	精神神経科
日本臨床救急医学雑誌	Yale-New Haven Hospital における精神科救急医療の実際—特に物質依存症への早期介入プロジェクト—	伊藤 敬雄	精神神経科
総合病院精神医学	総合病院と認知症 認知症にみられる睡眠障害	伊藤 敬雄	精神神経科
Int J Neuropsychopharmacol.	Effect of electroconvulsive therapy on 5-HT1A receptor binding in patients with depression: a PET study with [11C]WAY 100635.	Saijo T	精神神経科

小計 10 件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Clin Psychiatry	Electroconvulsive therapy decreases dopamine D(2) receptor binding in the anterior cingulate in patients with depression: a controlled study using positron emission tomography with radioligand [(11)C]FLB 457.	Saijo T	精神神経科
Int J Neuropsychopharmacol	Serotonin transporter genotype is associated with cognitive performance but not regional 5-HT1A receptor binding in humans	Saijo T	精神神経科
Science	When your gain is my pain and your pain is my gain: neural correlates of envy and schadenfreude	Okubo Y	精神神経科
Schizophr Res	Impact of changing the Japanese term for "schizophrenia" for reasons of stereotypical beliefs of schizophrenia in Japanese youth.	Okubo Y	精神神経科
Eur Arch Psychiatry Clin Neurosci	Exploratory eye movement dysfunction as a discriminator for schizophrenia: a large sample study using a newly developed digital computerized system.	Sekine M	精神神経科
Schizophr Res	Regional dopamine synthesis in patients with schizophrenia using L-[beta-11C]DOPA PET	Arakawa R	精神神経科
BMC Public Health	A randomized controlled multicenter trial of post-suicide attempt case management for the prevention of further attempts in Japan (ACTION-J).	Okubo Y	精神神経科
Eur Arch Psychiatry Clin Neurosci	Extrastriatal dopamine D(2) receptor occupancy in olanzapine-treated patients with schizophrenia.	Arakawa R	精神神経科
J Psychiatr Res	Increase in thalamic binding of [(11)C]PE2I in patients with schizophrenia: a positron emission tomography study of dopamine transporter.	Arakawa R	精神神経科
臨床精神医学	精神科と他科・他職種との連携	岡崎 祐士	精神神経科

小計 10 件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
核医学	(S, S) - [18F] FMeNER-D2 を用いた抗うつ薬のノルエピネフリントランスポーター占有率測定.	関根 瑞穂	精神神経科
てんかん研究	精神病を伴うてんかん症例における利き手.	大久保 善朗	精神神経科
精神薬療研究年報	抗精神病薬による下垂体ドーパミン D2 受容体阻害作用の定量的評価	荒川 亮介	精神神経科
精神科	非けいれん性てんかん発作重積により昏迷様状態を呈した1症例.	小須田 茂美	精神神経科
臨床精神医学	【緊張病(カタトニア)・再考】カタトニア症候群の治療.	大久保 善朗	精神神経科
医学教育	精神科クリニカルクラークシップの現状と問題点	齋藤 卓弥	精神神経科
Gene	Ligand-dependent transcriptional enhancement by DNA curvature between two half motifs of the estrogen response element in the human estrogen receptor alpha gene.	Onishi Y	小児科
Brain Dev.	A comparative study of nitric oxide, glutathione peroxidase activities in cerebrospinal fluid from children with convulsive diseases/children with aseptic meningitis.	Kawakami Y	小児科
Brain Dev.	An 8-year-old boy with vertebral artery dissection with cerebellar ataxia featuring suspected vertebral artery hypoplasia.	Kawakami Y	小児科
Helicobacter.	Long-term administration of probiotics to asymptomatic pre-school children for either the eradication or the prevention of Helicobacter pylori infection.	Kuwabara K	小児科
小児科医のための思 春期医学・医療	白血病・がん	前田 美穂	小児科

小計 11 件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
小児科臨床	長期生存白血病患児のQOL	前田 美穂	小児科
Biochemical and Biophysical Research Communications	Hematopoietic capacity of preterm cord blood hematopoietic stem/progenitor cells	Nakajima M	小児科
J Nippon Med Sch	Dextran Sulfate and Stromal Cell Derived Factor-1 Promote CXCR4 Expression and Improve Bone Marrow Homing Efficiency of Infused Hematopoietic Stem Cells	Hayakawa J	小児科
Cancer Chemother Pharmacol	Indometethacin overcomes doxorubicin resistance by decreasing intracellular content of glutathione and its conjugates eith decreasing expression of γ -glutamylcysteine synthetase via promoter activity in doxorubicin-resistant leukemia cells	Asano T	小児科
Frontiers in Rheumatology & Clinical Immunology	jIA に対するエタネルセプトの有用性	五十嵐 徹	小児科
日本小児腎臓病学会雑誌	1998~2005 年末までの期間に発生した 15 歳未満の末期腎不全症例の 2007 年末の状態に関する追跡調査集計結果の報告	服部 元史	小児科
小児内科	疾患別ステロイド薬の使い方・SIRS・重症感染症	五十嵐 徹	小児科
小児内科	これでわかる！病態からみた免疫抑制薬の使い方・若年性特発性関節炎	五十嵐 徹	小児科
Autoimmunity	Autoantibodies to lens epithelium-derived growth factor/transcription co-activator P75 (LEDGF/P75) in children with chronic nonspecific complaints and with positive antinuclear antibodies.	Kuwabara N	小児科
ペインクリニック特集 各診療科における頭痛治療の特徴	小児科における頭痛治療	桑原 健太郎	小児科

小計 10 件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Human Gene Therapy	Transient in vivo beta-globin production after lentiviral gene transfer to hematopoietic stem cells in the non-human	Hayakawa J	小児科
Biochemical and Biophysical Research Communications	Hematopoietic capacity of preterm cord blood hematopoietic stem/progenitor cells	Nakajima M	小児科
J Nippon Med Sch	Long-Term Prognosis of Patients with Kawasaki Disease: At Risk for Future Atherosclerosis?	Fukazawa R	小児科
J Nippon Med Sch	Dextran sulfate and stromal cell derived factor-1 promote CXCR4 expression and improve bone marrow homing efficiency of infused hematopoietic stem cells.	Hayakawa J	小児科
Cancer Chemother Pharmacol	Indomethacin overcomes doxorubicin resistance by decreasing intracellular content of glutathione and its conjugates, and decreasing expression of γ -glutamylcysteine synthetase via promoter activity in doxorubicin-resistant leukemia cells.	Asano T	小児科
J Nippon Med Sch	Fungal thoracic spondylodiskitis in an immunocompetent 14-year-old girl.	Asano T	小児科
Surgical Endoscopy.	Video-Assisted Breast Surgery can Sample the Second and Third Sentinel Nodes to Omit Axillary Node Dissection for Sentinel Node Positive Patients	山下 浩二	内分泌・心臓血管・呼吸器外科
小切開・鏡視手術学会雑誌	経腋窩乳腺後方アプローチ TARM-VABS による鏡視下乳腺内側部分切除法	山下 浩二	内分泌・心臓血管・呼吸器外科
日本整形外科学会誌	診療ガイドラインからみたアキレス腱断裂の診断・治療	伊藤 博元	整形外科
Journal of Ocular Biology Disease & Informatics	Mechanisms of immune privilege of the anterior segment ---what we learn from corneal transplantation---	Hori J	眼科
Cornea	Molecular mechanisms of immune-suppressive microenvironment in the cornea.	Hori J	眼科

小計 11 件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Jpn J Ophthalmol	Limbal nodules associated with Sweet's syndrome.	Kikuchi S	眼科
臨床眼科	日本医科大学付属病院眼科における内眼炎患者の統計的観察	伊藤 由紀子	眼科
眼科臨床紀要	サルコイドーシス診断基準の改訂による診断確定者数の変化	塚田 玲子	眼科
産科と婦人科	卵管妊娠の手術	明楽 重夫	女性診療科・産科
日本受精着床学会誌	排卵誘発時の卵胞液中 hexanoyl-lysine 濃度と ART 臨床	峯 克也	女性診療科・産科
周産期医学	不育症	竹下 俊行	女性診療科・産科
日本受精着床学会雑誌	アスピリン・ヘパリン療法不成功不育症例の臨床遺伝学的検討 Analysis of cases of the patients who have aspirin and heparin therapy but have miscarriage	稲川 智子	女性診療科・産科
エンドメトリオーシス研究会会誌	子宮腺筋症に対する GnRH アルゴニスト漸減療法 - 1年以上施行し得た症例から -	峯 克也	女性診療科・産科
産科と婦人科	GnRH アルゴニストの長期投与	峯 克也	女性診療科・産科
産婦人科手術	骨盤底からのアプローチ 骨盤臓器脱に対する Tension-free Vaginal Mesh (TVM) 手術 導入からの Learning Curve を中心として	明楽 重夫	女性診療科・産科
日本エンドメトリオーシス学会会誌	子宮腺筋症に対する腹腔鏡補助下子宮腺筋症切除術	菊池 英美	女性診療科・産科
日本骨盤底医学会雑誌	子宮筋腫を合併した骨盤臓器脱に対する LAVH 併施 TVM 手術	明楽 重夫	女性診療科・産科
Int J Oncol	Expression of fibroblast growth factor receptor 2 IIIc in human uterine cervical intraepithelial neoplasia and cervical cancer	Kawase R	女性診療科・産科
JMAJ	Accident or Crime? : Thoughts on criminalization of medical accidents	Sawa R	女性診療科・産科

小計 14 件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Obstetrics and Gynecology Research	Relevance of declines in serum human chorionic gonadotropin levels to the management of persistent ectopic pregnancy.	Abe T	女性診療科・産科
J Nippon Med Sch	Systemic endotoxin induces gene expression of inducible nitric oxide synthase in fetal rat brain.	Igarashi K	女性診療科・産科
J Reprod Med.	Proteomic analyses of recombinant human follicle-stimulating hormone and urinary-derived gonadotropin preparations.	Kuwabara Y	女性診療科・産科
Clin Exp Obstet Gynecol	Successful long-term management of adenomyosis associated with deep thrombosis by low-dose gonadotropin-releasing hormone agonist therapy.	Akira S	女性診療科・産科
Arch Gynecol Obstet	Combined chemotherapy with paclitaxel and carboplatin for mucinous cystadenocarcinoma of the ovary during pregnancy.	Doi D	女性診療科・産科
Med Sci Monit	Efficacy of long-term, low-dose gonadotropin-releasing hormone agonist therapy (draw-back therapy) for adenomyosis.	Akira S	女性診療科・産科
J of Neurosurgery Pediatrics	Recurrence of fibrous hemartoma of infancy excised 14 years after the primary surgery Case report	Miyamoto M	整形外科
骨折	手指の変形治癒・偽関節に対する創外固定を用いた最小侵襲矯正骨切り術	澤泉 卓哉	整形外科
運動療法と物理療法	慢性腰痛に対する簡便な運動療法の試行とMRI所見による筋動態の変化について	青木 孝文	整形外科
臨床整形外科	関節拘縮を伴う腱板不全断裂に対する鏡視下腱板修復・関節包解離術	橋口 宏	整形外科
Monthly Book Orthopaedics	上腕骨近位端骨折	飯澤 典茂	整形外科
Plast Reconstr Surg	Complications after autologous fat injection to the breast.	Hyakusoku H	形成外科・美容外科

小計 12 件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Plast Reconstr Surg	Treatment of recurrent earlobe keloids with surgery and high-dose-rate brachytherapy	Akaishi S	形成外科・美容外科
Ann Plast Surg	Histologic analysis of keloids and hypertrophic scars.	Ogawa R	形成外科・美容外科
Tissue Eng Part A	Orgill DP. The Effect of Hydrostatic Pressure on 3-D Chondroinduction of Human Adipose-Derived Stem Cells.	Ogawa R	形成外科・美容外科
J Plast Reconstr Aesthet Surg	Efficacy of 'rugby-ball shape' skin grafting using external wire frame fixation without tarsorrhaphy for lower eyelid reconstruction.	Murakami M	形成外科・美容外科
Plast Reconstr Surg	Anatomical and Clinical Studies of the Supraclavicular Flap: Analysis of 103 flaps Used to Reconstruct Neck Scar Contractures.	Ogawa R	形成外科・美容外科
Plast Reconstr Surg	Shape-modified Radial Artery Perforator Flap Method: Analysis of 112 Cases.	Ogawa R	形成外科・美容外科
Burns	A simple method to facilitate full-thickness skin graft harvest.	Ogawa R	形成外科・美容外科
Ann Plast Surg	Differential and Exclusive Diagnosis if Diseases Resemble Keloid and Hypertrophic Scar.	Ogawa R	形成外科・美容外科
Plast Reconstr Surg	Anatomical study of pectoral intercostal perforators and clinical study of the pectoral intercostal perforator flap for hand reconstruction.	Oki K	形成外科・美容外科
Plast Reconstr Surg	Vascular anatomy of the supraclavicular area revisited.	Uysal CA	形成外科・美容外科
Plast Reconstr Surg	Analysis of neuropeptides in stretched skin.	Chin MS	形成外科・美容外科
Plast Reconstr Surg	Reconstruction of acid-injured face with occipitocervicodorsal super-thin flaps.	Hyakusoku H	形成外科・美容外科
Tissue Eng Part C Methods.	In Vivo Acceleration of Skin Growth Using A Servo-Controlled Stretching Device.	Chin MS	形成外科・美容外科

小計 13 件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Plast Reconstr Surg	The Effect of Adipose Derived Stem Cells on Ishchemia Reperfusion Injury: Immunohistochemical and Ultrastructural Evaluation.	Uysal CA	形成外科・美容外科
Ann Plast Surg	Bilateral expanded cervico-pectoral "super-thin flap" for entire neck reconstruction.	Ogawa R	形成外科・美容外科
J Plast Reconstr Aesthet Surg.	Multidetector-Row Computed Tomography (MDCT) Analysis of the Supra-Fascial Perforator Directionality (SPD) of the Occipital Artery Perforator (OAP).	Ono S	形成外科・美容外科
Plast Reconstr Surg	Is Radiation Therapy for Keloids Acceptable? - The Risk of Radiation-induced Carcinogenesis -.	Ogawa R	形成外科・美容外科
Curr Stem Cell Res Ther.	Cartilage Regeneration Using Adipose-Derived Stem Cells.	Ogawa R	形成外科・美容外科
Plast Reconstr Surg	Improvement of the survival of human autologous fat transplantation by using VEGF-transfected adipose-derived stem cells.	Ogawa R	形成外科・美容外科
Ann Plast Surg	Visual and pathologic analyses of keloid growth patterns.	Akaishi S	形成外科・美容外科
Burns	The use of Japanese "kenzan" flower holders to create scar-less drainage holes in skin grafts.	Murakami M	形成外科・美容外科
Plast Reconstr Aesthet Surg J Plast Reconstr Aesthet Surg.	Re: Use of Aquamid as a filler for facial rejuvenation in orientals.	Ono S	形成外科・美容外科
ePlasty 10	Analysis of 22 Posterior Ulnar Recurrent Artery Perforator Flaps: A Type of Proximal Ulnar Perforator Flap.	Hyakusoku H	形成外科・美容外科
Burns.	Survival area of super-thin flaps.	Ogawa R	形成外科・美容外科

小計 11 件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Plast Reconstr Surg	Current Algorithms for Treatment and Prevention of Hypertrophic Scars and Keloids.	Ogawa R	形成外科・美容外科
Plast Reconstr Surg	The tensile Reduction Effect of Silicone Gel Sheetting.	Akaishi S	形成外科・美容外科
PEPARS	小児熱傷後の肥厚性瘢痕・ケロイドの治療	小川 令	形成外科・美容外科
PEPARS	瘢痕治療に対するレーザーの効果と限界	赤石 諭史	形成外科・美容外科
日形会誌	Orgill DP. 陰圧閉鎖療法 (VAC 療法) の作用機序に関する考察	小川 令	形成外科・美容外科
日美外誌	経腋窩バッグプロステーシス挿入法による豊胸術後遺症の検討	小野 真平	形成外科・美容外科
PEPARS	ケロイド・肥厚性瘢痕の治療指針	小川 令	形成外科・美容外科
PEPARS	ケロイドに対する術後電子線照射療法	小川 令	形成外科・美容外科
PEPARS	ロングパルス Nd: YAG レーザー	赤石 諭史	形成外科・美容外科
瘢痕・ケロイド治療ジャーナル	ケロイドの分類 ケロイド・肥厚性瘢痕の治療に即した分類法の提唱(第2報)	小川 令	形成外科・美容外科
瘢痕・ケロイド治療ジャーナル	ケロイド放射線治療における発癌リスクの考察	小川 令	形成外科・美容外科
瘢痕・ケロイド治療ジャーナル	瘢痕・肥厚性瘢痕およびケロイドの組織所見	赤石 諭史	形成外科・美容外科
瘢痕・ケロイド治療ジャーナル	シリコンジェルシートの力学的効果の検討	赤石 諭史	形成外科・美容外科
瘢痕・ケロイド治療ジャーナル	ケロイドの疫学調査の必要性	小川 令	形成外科・美容外科

小計 14 件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
形成外科	プロペラ皮弁法の新たな展開	百束 比古	形成外科・美容外科
PEPARS 35	レーザー治療による癬痕の治療 ロングパルス Nd:YAG レーザーを用いた癬痕の治療	赤石 諭史	形成外科・美容外科
形成外科	超薄皮弁による頸部熱傷癬痕拘縮の再建	百束 比古	形成外科・美容外科
日医大医学会誌	サウナによる顔面重症熱傷の1再建例	小野 真平	形成外科・美容外科
J Nippon Med Sch	Long-term Results of Ankle Arthrodesis Using an Intramedullary Nail with Fins in Patients with Rheumatoid Arthritis Hindfoot Deformity.	Takenouchi K	リウマチ科
BMC Res Notes	Prostaglandin E2 regulates the expression of connective tissue growth factor (CTGF/CCN2) in human osteoarthritic chondrocytes via the EP4 receptor.	Nakamura H	リウマチ科
Clin Exp Rheumatol	A metabolic aspect of osteoarthritis : lipid as a possible contributor to the pathogenesis of cartilage degradation.	Nakamura H	リウマチ科
Anti-Aging medicine	膝疾患に対する有効的な治療法とは？「サプリメントによる治療」	中村 洋	リウマチ科
リウマチ科	変形性関節症におけるグルコサミンの効果	中村 洋	リウマチ科
リウマチ科	軟骨代謝に関与するメディエーターと変形性関節症	中村 洋	リウマチ科
日本関節病学会誌	変形性関節症に対するグルコサミン・コンドロイチンの有用性	中村 洋	リウマチ科
Biosci Biotechnol Biochem.	Effects of an oral administration of glucosamine-chondroitin-quercetin glucoside on the synovial fluid properties in patients with osteoarthritis and rheumatoid arthritis .	Nakamura H	リウマチ科

小計 12 件

合計 158 件

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	院長 福永 慶隆
管理担当者氏名	各部署長

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		各部署	<ul style="list-style-type: none"> 各年度毎、各月毎に分類 病歴番号による分類等
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	庶務課	<ul style="list-style-type: none"> 各年度毎、各月毎に分類
	高度の医療の提供の実績	医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	庶務課	
	高度の医療の研修の実績	臨床研修センター	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医療連携室	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	庶務課 薬剤部	
第規一則号第一に掲げる十の体制第一の確保各号状及び第九条の二十三第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理部	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理部	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	患者相談窓口	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	医療安全管理部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医療安全管理部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療安全管理部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	ME部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME部
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME部		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME部		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	福永 慶隆
閲覧担当者氏名	小林 義紀
閲覧の求めに応じる場所	閲覧室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	3	件
閲覧者別	医 師	延		件
	歯 科 医 師	延		件
	国	延	1	件
	地方公共団体	延	2	件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率		61.9 %	算定期間	平成21年4月1日～平成22年3月31日
算 出 根 拠	A：紹介患者の数		14,286	人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		8,745	人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		6,509	人
	D：初診の患者の数		38,0975	人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 1 条の 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有
・ 指針の主な内容： 医療事故防止の基本的考え方、安全管理のための院内体制、報告システムについて、安全管理のための組織の運用、病院職員の教育・研修、事故発生時の対応、医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針、患者からの相談への対応に関する基本方針、緊急連絡体制の整備 等	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回
・ 活動の主な内容： 1) 医療安全管理の指針の見直し、医療安全管理研修の計画、事故防止対策案の策定・周知 2) 安全管理に関する広報活動等 3) 第三者を交えた事故調査委員会の開催・検証	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 回
・ 研修の主な内容： 「医療システムの危機」 平成21年7月9日 「注射剤の安全管理について」 平成21年12月14日 「医療機器の安全管理について」 平成21年12月14日	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1) 医療安全集中管理システム(セーフマスター)での管理 2) 医療安全ウェブサイト(安全オンデマンド)による情報共有 3) 医療安全管理の手引きの改訂・配布 4) 各部門における手順書・マニュアルの整備と周知 5) リスクマネージャ会議(月1回)における事例報告・改善方策周知 6) 院内リスクアナウンス(安全情報等)の周知確認登録の導入 等	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有(2名)
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有(1名)
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有
・ 所属職員：専任(10)名 兼任(10)名 ・ 活動の主な内容： 1) 医療安全管理委員会の定期開催(月1回) 2) リスクマネージャ会議の定期開催(月1回) 3) 個人情報保護推進委員会の定期開催(月1回) 4) 医療ガス安全管理委員会の定期開催(年1回) 5) 平成21年度医療相互チェック(相互ラウンド)の実施 6) 日本医療機能評価機構への参画 7) 医療安全管理総合ガイドラインの見直し 等	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 基本方針と3つの目標と5つの管理視点について 2) 感染管理組織の内容と業務について 3) 院内研修に関する取り決めと参加の必要性および実施計画の策定方法について 4) 感染症発生時の院内の報告義務と報告ルート・報告方法について 5) 院内感染発生時の現場及び感染管理組織の対応方法と感染症法に基づく対応について 6) 指針閲覧に対する対応方法と窓口について 7) 患者ならびに家族への指導について 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 病院感染対策の強化、追加、改善に関する方針決定 2) 監視（サーベイランス）データの報告と問題点に関する討議 3) 感染防止ガイドライン、マニュアル、指針の策定及び改正に関する討議、決定 4) 院内研修及び教育活動に関する計画の討議、決定 5) 上記1～4に関する周知・徹底、ならびに周知・徹底方法に関する討議、決定 6) 院内発生事象に関する報告及び院内対応方法の討議・決定 7) 感染制御チームに対する助言、支援 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 2 回 他
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 2009年度第1回院内感染対策講演会（全職員） 「新型インフルエンザの現状と今後の展開・対策」 東北大学大学院 内科病態学講座 感染制御検査診断学分野 講師 森兼啓太先生 2) 2009年度第2回院内感染対策講演会（全職員）「話題の耐性菌と抗菌薬の適正使用」 東邦大学医学部微生物感染症学講座 准教授 舘田一博先生 3) 2009年度新入職員オリエンテーション・演習（全職種） 4) 中途採用者オリエンテーション（全職種） 5) 委託清掃業者への感染防止研修 6) 手洗い、手指消毒演習（全職員） 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 （有）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 薬剤耐性菌サーベイランスの拡大と情報共有のための報告・周知システムの変更 2) 飛沫感染者用救急診察ブースの設置 3) 感染防止チェックリストの改訂と自己チェックに基づくICTラウンド 4) 医師、検査技師、薬剤師の手指消毒剤の携帯 	

(様式第 13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
・ 研修の主な内容： 1) 「医療システムの危機」 平成21年7月9日 2) 「注射剤の安全管理について」 平成21年12月14日	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (有) ・ 業務の主な内容： 医薬品の安全使用のための業務チェックリストにて年2回確認を行っている。 (別紙)	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1) 添付文書については改訂毎にMRより入手するか、医薬品医療機器総合機構ホームページよりダウンロードして対応している。 2) 緊急安全性情報などは、薬剤部ニュース及び病棟担当薬剤師より主治医へ情報提供される。 3) 医薬品情報(毎月発行)に関連情報を記載し配布している。	

医薬品の安全使用のための業務チェックリスト

2010年4月改訂

記入者名

実施年月日 年 月 日

設定 2008. 4

改訂 2010. 3

【概要】

1.0 基本事項

- 患者の個人情報を守秘する対策等が図られている
- 時間外の調剤への対応がととのっている
- 院内の理念、基本方針を遵守している
- 決定事項等を迅速に薬剤部職員に周知徹底している
- 各部署の業務内容を定期的に調査し、見直している
- 採用医薬品を薬剤部で一元管理している
- 医薬品マスターの管理に関与している
- 病棟に担当薬剤師を配置している

1.1 保有している設備とその保全

- 地震、防火等の対策が整備されている
- かぎのかかる貯蔵設備を有している
- 冷蔵貯蔵のための設備を有している
- 調剤室等室の明るさが十分に確保されている
- 各機器、設備は定期に保守点検が行われ、その結果が記録されている
- 薬剤部でインターネットが利用できる
- 集塵装置、局所排気等の職員の健康に関する設備が整備されている
- 散剤分割分包機を有している
- 薬剤部専用のFaxを有している
- 薬剤部専用のパソコンを有している
- 自動薬袋作成機を有している
- 自動錠剤分包機を有している
- 薬剤部専用のシュレッダーを有している
- 薬剤部専用の複写機を有している
- 薬剤情報提供用のカラー印刷機を有している
- 換気が十分であり、かつ室内を常に清潔に保っている

1.2 コンピュータシステムの導入

- 散剤鑑査システムを導入している
- 錠剤鑑別、文献検索等のシステムを導入している
- 液剤鑑査システムを導入している

1.3 教育・研修

- 薬剤部で勉強会等を定期に開催している
- 電話での適正な疑義照会の仕方について指導している
- 院内外の学会、研修会等への出張が認められている
- 定期購読等図書購入費が認められている
- 日本医療薬学会等の「認定薬剤師」、「研修施設の認定」の取得を支援している
- (財)日本薬剤師研修センターの「研修認定薬剤師」の取得を支援している
- 各自研究テーマを持ち、積極的に取り組んでいる

1.4 勤務体制

- 平日宿直している
- 祝日、土曜日、日曜日宿直している
- 祝日、土曜日、日曜日日直している

1.5 診療報酬が認められている業務

- 調剤

外来患者への薬剤情報提供

1.6 作成している業務マニュアル

- 調剤過誤防止マニュアル
- 麻薬及び向精神薬取り扱いマニュアル
- 特定生物由来製品の管理マニュアル

1.7 院内各種委員会への参画

- 薬事委員会
- 院内感染防止対策委員会
- リスクマネジメント専門部会
- 褥瘡対策チームへの参画（診療報酬が認められている業務）

1.8 地域薬剤師会との連携

- 院外処方せんを発行している
- 院外薬局からの疑義照会の対応の仕方が確立している
- 地域薬剤師会との緊急連絡の対応の仕方が確立している
- 病院と地域薬剤師会との連絡協議会を設置（定期開催）している
- 「おくすり手帳」等を活用している
- 薬局薬剤師の病院実習を受け入れている

1.9 医療廃棄物処理

- 一般廃棄物、感染廃棄物、医療廃棄物を分別し廃棄している
- 患者情報が記載された「もの」について適切に廃棄している
- 有効期限切れ、使用残薬剤、投与中止、処方変更による未使用の薬剤を薬剤部（科）で処理している

【医薬品の採用】

2.0 採用医薬品の選定

- 薬事委員会に参画している
- 名称、外観類似の回避等使用安全確保の観点から評価している

2.1 医薬品情報の収集

- 添付文書等を収集している
- 新規採用医薬品のヒヤリングをしている
- 副作用の初期症状についての情報を収集している

2.2 医薬品情報の解析と評価

- 医薬品の安定性や製剤特性等について検討している
- 患者へ提供すべき医薬品情報について検討している
- 類似名称、外観類似等医療事故の誘発因子になる可能性の有無について検討している
- 保管上の問題点について検討している

3.0 麻薬

- 「麻薬譲渡証」を2年間保存している
- 麻薬譲渡証の商品名、数量、製造番号と現品とを照合している
- 麻薬譲渡証の記載事項及び押印等を確認している
- 麻薬の外箱に証紙による封緘を確認している
- 麻薬（規格単位）毎に購入量、製造番号（ロット番号）、購入年月日、卸業者の名称を麻薬管理簿に記録している

3.1 在庫管理

- デッドストックを防止している
- 定期的に棚卸しを実施している
- 先入れ・先出しの原則を徹底している
- 災害時に必要な医薬品をリストアップし、一定の在庫量を確保している。
- 添付文書に記載されている貯法を遵守し、24時間空調等対策が施されている
- 医薬品管理室、医薬品庫及び調剤室、冷蔵庫等の温度をモニターしている

- 期限切れが間近な未使用医薬品を可能な限り返品処理又は有効利用している
- 破損処理を適切にしている
- 盗難、紛失を防ぐための対策が施されている

3.1.1 麻薬

- 金庫は周囲の状況から見て安全な鍵のかかる部屋に設置している
- 麻薬保管庫は麻薬専用とし、他の医薬品や書類等を一緒に入れていない
- 麻薬保管庫は、出し入れのとき以外は必ず施錠している
- 受払管理簿の残数と現在庫数を毎日照合している
- 薬剤毎に受領年月日、施用又は交付年月日、受払数量、払出先、現在庫数、患者氏名 (ID 番号) を麻薬管理簿に記載している
- 所有している麻薬を廃棄するときは、「麻薬廃棄届出書」を知事あてに提出している
- 麻薬の廃棄は、麻薬監視員立ち会いの上廃棄し、管理簿に記載している
- 薬剤返還理由書と不要になった麻薬を受け取り、廃棄簿又は麻薬管理簿に記載し、第三者立ち会いの上粉碎等し、廃棄している
- 鍵は関係者のみ周知の場所に保管している

3.1.2 覚せい剤原料

- 金庫等施錠可能な保管庫に保管している
- 所有している覚せい剤原料を廃棄するときは、「覚せい剤原料廃棄届出書」を知事あてに提出している
- 覚せい剤原料の廃棄は、覚せい剤監視員立ち会いの上廃棄し、管理簿に記載している
- 薬剤 (第1種、第2種) 毎に受払年月日、受払数量、払出先、患者氏名、現在庫数、受払者氏名をノート等に記載している

3.1.3 向精神薬

- 金庫等施錠可能な保管庫に保管している
- 薬剤 (第1種、第2種) 毎に受払年月日、受払数量、払出先、患者氏名、現在庫数、受払者氏名をノート等に記載している
- 不要になった向精神薬を受け取り、第三者立ち会いの上粉碎等し廃棄している
- 廃棄した向精神薬の品名、数量及び年月日を記録し、その記録を保管している

3.1.4 毒薬

- 法規に基づいて適切に表示し保管している
- 鍵のかかる場所に施錠し保管している

3.1.5 劇薬

- 法規に基づいて適切に表示し保管している

3.1.6 特定生物由来製品

- 添付文書に基づいて適切に保管している

3.2 供給管理

- 医薬品の品質を確認し供給している
- 原則、注射剤も含め処方せんにより交付している
- 各診療科の特徴を考慮し、定数配置薬の供給方法 (セット交換方式又は補充方式) を決めている
- 各診療科の使用量、使用頻度等を考慮し、定数配置薬の種類とその在庫数を決めている
- 麻薬、覚せい剤原料、向精神薬、毒薬、特定生物由来製品は必要最小量を処方するように指導している

3.3 処置薬

- 定期に有効期限、使用期間をチェックしている

3.4 患者持参薬の管理

- 持参薬について薬剤師が鑑別し、その情報を医師等に提供している
- 持参薬が採用医薬品でないときは、同一成分又は同効薬等についての情報を提供している
- 持参薬への対応の仕方が確立している

【調剤】

4.0 処方せんの受付・点検

- リスクの高い薬剤 (糖尿病治療薬、抗てんかん薬、抗悪性腫瘍剤、強心薬、抗不整脈薬、ワーファリン等) がはじめて処方されたときは、患者情報等で確認している

4.1 患者情報に基づいた処方せんの解析評価(内用・外用剤)

- 用法・用量、投与日数等が添付文書から逸脱していないかどうかチェックしている
- 患者氏名、年齢、現疾患名と処方薬及び用量を照合し、適正かどうか解析している
- 重複投与、投与禁忌、相互作用等の有無をチェックしている
- 投与期間が適切かどうかチェックしている
- 処方薬の安定性、配合変化等について解析している

4.2 疑義照会

- 疑義照会に関する手順書を作成している
- 疑義内容を簡潔に要領よくまとめてから処方医に照会している
- 処方医に疑義照会の意図を正確に伝え、理解を得、納得した上で処方訂正している
- 訂正及び変更内容を処方せんの備考欄等に記載している
- 必要により訂正及び変更内容を看護師に連絡している
- 疑義照会経過(日時、薬剤師・医師氏名、疑義内容、変更・訂正の内容等)を記録している(薬歴簿等)

4.3 薬袋又はラベルの作成(内用剤・外用剤)

- 処方毎に処方薬の量及び剤型に応じた薬袋、容器、ラベル等を選択している
- 調剤年月日、患者氏名、診療科名、投与開始日、用法・用量等記載している
- 薬剤師の氏名、調剤済、調剤年月日を記載している
- 冷所、遮光等の保存方法を記載している
- 「必ず水に溶かして服用」、「多くの水で服用」等の服用時の注意事項を記載している
- 与薬スケジュール表の貼付等の工夫をしている

4.4 計数調剤(内用剤・外用剤)

- 処方せんと薬袋等を照合している
- 処方せん1使用単位毎に処方薬を薬袋又はケース等に取り揃えている
- 遮光対策を施している

4.5 計量調剤(内用剤・外用剤)

- 散剤を秤量する計量器のゼロ点の調整、水平確認等の確認を毎日実施している
- 処方せんと薬袋等の患者氏名を照合している
- 賦形剤を添加するルールを定め、添加したときは処方せんに種類と量を記録している
- 倍散、倍液、原末、製剤量等、処方せんに記載されている用量を確認している
- 錠剤やカプセル剤のつぶした数量を処方せんに記録している
- 粉碎した錠剤等はふるいをかけ他の散剤と混合している
- 乳鉢、乳棒、分包機等に付着した薬剤との相互汚染に注意している
- 配合変化表を掲示している

4.6 調剤済薬剤の鑑査(内用剤・外用剤)

- 二重鑑査を実施している
- 処方せんの記載事項と薬袋、ラベル等への記載事項を照合している
- 処方せんに記載されている薬剤名と調剤済薬剤とを照合している
- 薬袋等の種類と数をチェックしている
- 分包されている散剤の色や形状等をチェックしている
- 分包された散剤に異物等が混入していないかチェックしている
- 散剤が均一に分包されているかチェックしている
- 処方変更、疑義照会の回答等が処方せんに記載されているかチェックしている
- チェックしたエラーについて、その内容をメモしている

4.7 調剤済薬剤の交付(内用剤・外用剤)

- 薬袋への記載内容及び文字等の工夫をしている
- 便や尿の色が変わる等生理的変化について記載した文書(パンフレット等)を添付している
- 口腔剤、舌下錠、点鼻剤、点眼剤、坐剤、吸入剤等の用法についてわかりやすく記載した文書(パンフレット等)を添付している

4.8 調剤過誤防止対策

- 散薬瓶や調剤棚等に貼付するラベルは、判別しやすい文字を用いている
- 冷所に保管する薬袋及びラベルには〇冷等の印をつけている
- 糖尿病治療薬、向精神薬が処方されている薬袋、ラベル等に〇向、〇糖等の印をつけている
- 散薬瓶等に貼付するラベルには医薬品名の他に規格や常用量等を表示している
- 名称、外観等類似している医薬品は隣接して配列することを避ける等の工夫をしている
- 散薬瓶、自動錠剤包装機等への充填は、複数人でラベルを確認し、充填記録帳等に充填年月日、医薬品名、実施者氏名を記載している
- 散薬瓶の充填機会を少なくするために小包装単位を購入し、可能な限りそのまま使用している
- 散薬瓶が空になってから充填している
- 散剤鑑査システムで出力されたプリントを処方せんに貼付している(導入している場合)
- 液剤鑑査システムで出力されたプリントを処方せんに貼付している(導入している場合)
- 錠剤やカプセル剤粉碎したときは、外した錠剤等のシート、混合した軟膏等のチューブ等を薬袋に添付している
- 混合不適薬剤一覧を掲示している
- 賦形剤の添加等調剤について、調剤指針を遵守している
- 各室の整理整頓を励行している
- 調剤機器を定期的に保守点検している
- 添付文書の注意事項の変更等について周知徹底している
- 調製後自己鑑査の実施を周知徹底している
- 調製した薬剤師と鑑査する薬剤師を異にしている(二重鑑査)
- 鑑査時に発見されたエラーについて記録している
- 鑑査時に発見されたエラーについて部員で情報を共有している(朝礼時等)
- 鑑査時に発見されたエラーについて定期的に分析を行い、対策を講じている
- 鑑査時に発見された誤って調剤された医薬品は一旦別に保管し、業務終了時等に調剤棚に戻している
- 医療事故や調剤過誤の症例報告を義務付けている
- 医療事故や調剤過誤等の原因について解析し、その防止対策を協議している
- 医療事故や調剤過誤が起きたときの迅速な対応について周知徹底している

5.0 院内感染対策

- 薬剤師がICTの一員として活躍している。
- 適切な消毒薬を選択している
- 開封後の消毒液を適正に管理している
- 薬剤部(科)から抗菌薬、消毒薬等の使用に関する情報を提供している
- 院内における抗菌薬使用の指針や基準が定められている
- 院内検出菌の推移、抗菌薬感受性の推移等定期的に調査している
- 抗菌薬の使用状況調査を実施している
- MRSA 感染症治療薬の使用状況を把握している

【教育】

6.0 卒前実習

- 卒前実習生を受け入れている
- 卒前実習のカリキュラムを作成している
- 実習生の評価をしている
- 実習テキストを作成している

17.0 卒後研修

- 卒後研修生を受け入れている
- 卒後研修のカリキュラムを作成している
- 研修生の評価をしている
- 実習テキストを作成している

* 業務チェックは年2回(3月・9月)の医薬品の品質管理時に実施する

備考欄	医薬品安全管理 責任者印

- 医薬品の安全使用のための業務チェックリスト(注射薬品補給室) -

記入者名

実施 年月日 年 月 日

設定	2008. 4
----	---------

改訂	2010. 3
----	---------

【概要】

1.0 基本事項

時間外の調剤への対応がととのっている

1.1 保有している設備とその保全

- かぎのかかる貯蔵設備を有している
- 冷暗貯蔵のための設備を有している
- 調剤室等室の明るさが十分に確保されている
- 薬剤部でインターネットが利用できる
- 薬剤部専用のFaxを有している
- 薬剤部専用のパソコンを有している
- 薬剤部専用のシュレッダーを有している
- 薬剤部専用の複写機を有している
- クリーンルームを有している
- クリーンベンチを有している
- クリーンベンチの浮遊塵及び細菌を定期検査している
- 安全キャビネットを有している
- 安全キャビネットの浮遊塵及び細菌を定期検査している

1.2 教育・研修

- 電話での適正な疑義照会の仕方について指導している
- 院内外の学会、研修会等への出張が認められている
- 日本医療薬学会等の「認定薬剤師」、「研修施設の認定」の取得を支援している

1.3 勤務体制

- 平日宿直している
- 祝日、土曜日、日曜日宿直している
- 祝日、土曜日、日曜日日直している

1.4 診療報酬が認められている業務

- 高カロリー輸液の無菌調製
- 抗悪性腫瘍剤の無菌調製

1.5 作成している業務マニュアル

- 薬品管理マニュアル
- 注射薬品補給室マニュアル
- 輸液調製マニュアル
- 抗悪性腫瘍剤調製マニュアル

1.6 院内各種委員会への参画

- 薬事委員会
- リスクマネジメント専門部会
- 医療ガス安全管理委員会
- 情報処理委員会

【医薬品管理】

2.0 購入管理

- 採用医薬品の使用量から発注量を決めている
- 発注書と納品を照合している
- 納品の商品名、剤形、数量、規格単位、包装単位、製造番号を確

- 納品の製造年月日と使用期限を確認している
- 納品の破損の有無、外観を検査している
- JGSP を実践している医薬品卸業者との間で購入契約を結んでいる

2.0.1 向精神薬(第1種及び第2種)

- 薬剤(規格単位)毎に購入量、購入(返品)年月日、在庫量、購入者氏名を小伝票等に記載している
- 納品書を保管している

2.0.2 毒薬

- 薬剤(規格単位)毎に購入量、購入(返品)年月日、在庫量、購入者氏名を小伝票等に記載している
- 納品書を保管している

2.0.3 特定生物由来製品

- 製剤毎に規格単位、製造番号(ロット番号)、購入量、購入年月日を小伝票等に記載している
- 納品書を保管している

2.1 在庫管理

- 医薬品が適切に配置及び表示されているかチェックしている
- 普通薬、劇薬、毒薬、向精神薬、麻薬、覚せい剤原料、特定生物由来製品に分類し保管している
- 錠剤、散剤、液剤、外用剤、注射剤等の剤型毎に分類し保管している
- デッドストックを防止している
- 定期的に棚卸しを実施している
- 先入れ・先出しの原則を徹底している
- 添付文書に記載されている貯法を遵守し、24時間空調等対策が施されている
- 期限切れが間近な未使用医薬品を可能な限り返品処理又は有効利用している
- 医薬品の在庫配置図等を作成している
- 破損処理を適切にしている
- 盗難、紛失を防ぐための対策が施されている

2.1.1 向精神薬

- 金庫等施錠可能な保管庫に保管している
- 薬剤(第1種、第2種)毎に受払年月日、受払数量、実施年月日、払出先、患者氏名、現在庫数、受払者氏名を管理表に記載している
- 廃薬・返品した向精神薬の品名、数量及び年月日を記録し、その記録を保管している

2.1.2 毒薬

- 法規に基づいて適切に表示し保管している
- 鍵のかかる場所に施錠し保管している
- 冷所保存品は施錠可能な保冷库等に保管している
- 筋弛緩薬は薬剤(第1種、第2種)毎に受払年月日、受払数量、実施年月日、払出先、患者氏名、現在庫数、受払者氏名を管理表に記載している

2.1.3 劇薬

- 法規に基づいて適切に表示し保管している

2.1.4 特定生物由来製品

- 添付文書に基づいて適切に保管している
- 薬剤毎に受払年月日、ロット番号、払出先、患者氏名、実施年月日、払出数量、受払者氏名を管理表に記載している

2.2 供給管理

- 医薬品の品質を確認し供給している
- 原則、注射剤も含め処方せんにより交付している
- 各診療科の特徴を考慮し、薬剤の供給方法(定数配置等)を決め

- 各診療科の特徴を考慮し、定数配置薬の供給方法(セット交換方式又は補充方式)を決めている
- 各診療科の使用量、使用頻度等を考慮し、定数配置薬の種類とその在庫数を決めている
- 麻薬、覚せい剤原料、向精神薬、毒薬、特定生物由来製品は必要最小量を処方するように指導している
- 抗悪性腫瘍剤、覚せい剤原料は各診療科(部)に定数配置していない

2.3 使用管理

- 麻薬、覚せい剤原料、向精神薬(第1種、2種)、毒薬について、誰が、何を、いつ、誰に、どのくらい使用したか、麻薬施用票、診療科の帳票(管理簿等)を毎日確認している
- 施錠の有無を確認している
- 患者の氏名(ID番号)、住所、使用した特定生物由来製品の名称、製造番号(ロット番号)、数量、使用年月日を使用管理簿に記録している
- 特定生物由来製品の名称と製造番号(ロット番号)から使用した患者の氏名(ID番号)及び使用年月日が検索できるシステムを構築している
- 特定生物由来製品の使用管理簿を20年間保管している
- 記録の保存を電子媒体でするときには、常に紙媒体で確認できるようにしている
- 盗難、紛失、破損等の事故発生状況の報告をお願いしている

2.3.1 処置薬

- 定期に有効期限、使用期間をチェックしている

2.3.2 救急薬

- 救急薬の種類及びその数量等について各診療科と協議し、決めている
- 定期に有効期限又は使用期間をチェックしている

【調剤】

3.0 患者情報に基づいた処方せんの解析評価(注射剤)

- 投与回数、投与方法、投与経路、投与速度、投与時間等が添付文書から逸脱しているかどうかチェックしている
- 患者氏名、年齢、体重等の患者情報と処方薬及び用量を照合し、適正かどうか解析している
- 投与期間が適切かどうかチェックしている
- 注射剤混合後の安定性及び配合変化をチェックしている

3.1 疑義照会

- 処方医に疑義照会の意図を正確に伝え、理解を得、納得した上で処方訂正している
- 訂正及び変更内容を処方せんの備考欄等に記載している
- 必要により訂正及び変更内容を看護師に連絡している
- 疑義照会経過(日時、薬剤師・医師氏名、疑義内容、変更・訂正の内容等)を記録している(薬歴簿等)

3.2 計数調剤(注射剤)

- 処方せん1使用単位毎に、必要な注射剤をトレイや薬袋等に取り揃えている
- 遮光袋等の添付品をつける等遮光対策を施している
- 管理表を用いてダブルチェックしている医薬品は抗悪性腫瘍剤、ジゴシン、投与間隔が定められた医薬品、名称が似ている医薬品をしている

3.3 無菌調製(注射剤)

- 配合変化表を作成し、確認している
- 無菌室(クリーンルーム、クリーンベンチ等)で注射剤を混合調製している
- クリーンベンチ内に消毒用アルコールを噴霧し消毒している
- 注射器、フィルター等の使用器材を無菌室内に配置している
- 混合する注射剤をトレイ等に入れ消毒用アルコール等で消毒し無菌室に搬入している
- 手指を洗浄しマスク、帽子、専用衣を着用して混合調製している
- 処方せんとラベルの患者氏名及び取り揃えた注射剤を照合してい

- 処方せんの1使用単位毎に必要な薬剤を計量し、混合調製している(抗悪性腫瘍剤、高カロリー輸液の注射剤含む)
- ゴム穿刺部位を消毒し、専用キャップあるいは滅菌シールを貼付している
- 処方せん1使用単位毎にラベルを添付している
- 混合した実施者氏名、年月日、件数等業務内容を記録している
- 使用済み注射針、連結管、アンプル等を専用容器に入れ医療廃棄物として廃棄している
- 定期的に無菌室の落下菌、浮遊塵量等を検査している

3.3.1 無菌調製済薬剤の鑑査(注射剤)

- 二重鑑査を実施している
- 処方とラベルを再度照合し、患者氏名、処方薬、用量、投与方法、投与時間、投与速度等をチェックしている
- 使用済み空アンプル等の残量をチェックしている
- 色調、析出物、異物、液漏れ等をチェックしている

3.3.2 調剤過誤防止対策(注射剤)

- 用量単位がmg,mEq 等からmL への換算が複雑な場合には、溶液量を記載している
- 麻薬、インシュリン製剤、混合後不安定な薬剤等の混合しない薬剤について、その旨を処方せん(病棟控え)に記載している
- セットする注射剤の用量が1本の整数倍でない場合は、用量にアンダーライン等の印を付けている
- 無菌室等の整理整頓を励行している
- 調製後自己鑑査の実施を周知徹底している

* 業務チェックは年2回(3月・9月)の医薬品の品質管理時に実施する

備考欄	医薬品安全管理 責任者印

- 医薬品の安全使用のための業務チェックリスト(薬品情報室) -

記入者名

実施 年月日 年 月 日

設定 2008. 7

改訂 2010. 3

【概要】

1.0 基本事項

- 患者の個人情報を守秘する対策等が図られている
- 薬剤師配置基準を満たしている
- 採用医薬品を薬剤部で一元管理している
- 医薬品マスターの管理に関与している

1.1 保有している設備とその保全

- 専用の医薬品情報室を設置している
- 薬剤部でインターネットが利用できる
- 薬剤部専用のFaxを有している
- 薬剤部専用のパソコンを有している
- 薬剤部専用のシュレッダーを有している
- 薬剤部専用の複写機を有している
- 薬剤情報提供用のカラー印刷機を有している

1.2 コンピュータシステムの導入

- 錠剤鑑別、文献検索等のシステムを導入している
- 診療支援システムが利用できる

1.3 教育・研修

- 薬剤部で勉強会等を定期に開催している
- 院内外の学会、研修会等への出張が認められている
- 各自研究テーマを持ち、積極的に取り組んでいる

1.4 診療報酬が認められている業務

- 褥瘡対策チームへの参画

1.5 作成している業務マニュアル

- 入院患者の持参薬取り扱いマニュアル

1.6 院内各種委員会への参画

- 薬事委員会
- 医療保険委員会
- 臨床検査委員会
- 褥瘡委員会

1.7 地域薬剤師会との連携

- 地域薬剤師会との緊急連絡の対応の仕方が確立している
- 採用医薬品の一覧を公開している
- 病院と地域薬剤師会との連絡協議会を設置(定期開催)している

【医薬品の採用】

2.0 採用医薬品の選定

- 薬事委員会で審議し、採用医薬品を決定している
- 名称、外観類似の回避等使用安全確保の観点から評価している
- 採用医薬品の品目数の上限を設定している(一増一減の厳守)

- 採用医薬品以外で院外処方する医薬品についても薬事委員会で審議している

2.1 新規採用医薬品の申請

- 医師の「新規採用医薬品申請書」等を薬事委員会事務局(薬剤部(科))で受け付けている
- 申請された医薬品の適切な情報を収集している
- 薬価算定の評価(類似薬等)を参考にしている
- 収集した医薬品情報を適切に解析している
- 薬事委員会等を定期(臨時有)に開催している

2.2 医薬品情報の収集

- 添付文書、インタビューフォーム、製品概要等を収集している
- 新規採用医薬品のヒアリングをしている
- 医薬品安全性情報等安全性に関する医薬品情報を収集している
- 同種同効薬の年間使用量を調査している
- 臨床試験、非臨床試験のデータを収集している
- 副作用の初期症状についての情報を収集している
- 同種同効薬について必要な医薬品情報を収集している
- 市販される新薬の動向を調査している
- 学術雑誌、学会誌等からも医薬品情報を収集している
- 新聞、雑誌、書籍等からも医薬品情報を収集している

2.3 医薬品情報の解析と評価

- 臨床試験データに基づいて有効性を検討している
- 有用性について同種同効薬と比較検討している
- 医薬品の安定性や製剤特性等について検討している
- 過量投与等による急性中毒(重篤な副作用の発現の有無)について検討している
- 高齢者、小児、妊産婦等への使用上注意すべき点について検討している
- 患者へ提供すべき医薬品情報について検討している
- 類似名称、外観類似等医療事故の誘発因子になる可能性の有無について検討している
- 保管上の問題点について検討している
- 院内の採用削除薬の代替、同種同効薬等について検討している
- 添加剤、溶解剤等製剤的物性について検討している
- 薬物動態学及び薬力学の視点から有効性、安全性について検討している
- 腎機能、肝機能への影響について検討している
- 非臨床データ(毒性、有害事象等)について検討している
- モニターすべき副作用の初期症状及び臨床検査値を検討している
- 作用機序等から副作用を予測している
- 包括支払い方式の導入に伴う経済的(収益性)有用性について検討している

2.4 薬事委員会

- 委員会の事務局を薬剤部(科)に置いている
- 委員会で使用する適切な資料を薬剤部(科)で準備している
- 委員会に提出された資料を薬剤師が説明している
- 採用可否について薬剤師としての意見を明確に述べている
- 資料に基づき医薬品の採否を審議している
- 審議内容が把握できる議事録を作成している
- 審議結果を各診療科に通知している
- 適宜、採用医薬品を見直している
- リスクの高い医薬品の適正な使用基準を決めている

2.5 採用医薬品の見直し

- 削除医薬品の過去1年間の使用量を調査している
- 使用量に合わせて包装単位を見直している
- オーフアンドラッグ、緊急処置薬、特殊薬剤を一覧表にしている

2.6 新規及び削除採用医薬品の事務手続き及び広報

- レセプト等事務手続きのために必要な情報を提供している
- 医薬品管理マスターに登録している

院内及び地域薬剤師会に文書等で連絡している

3.0 患者持参薬の管理

- 持参薬について薬剤師が鑑別し、その情報を医師等に提供している
- 持参薬が採用医薬品でないときは、同一成分又は同効薬等についての情報を提供している
- 持参薬への対応の仕方が確立している

3.1 医薬品管理諸統計帳票

医薬品別使用患者数

【安全管理】

4.0 医薬品情報

- 医薬品情報の収集・整理・保管管理及び情報の加工と専門的評価をしている
- 院内情報誌、医薬品集、印刷物(パンフレット)等を通じて情報提供を積極的に行っている
- 医療従事者からの質疑に対する情報を収集し応答している
- 質疑応答の内容を記録している
- 必要に応じ質疑応答の関連文献を収集解析し雑誌等に報告している
- 副作用情報を的確に収集している
- 医薬品緊急安全性情報、医薬品等安全性情報を医師等へ迅速に文書により伝達している
- 常時、医薬品に関する問い合わせに対応している
- 医薬品、家庭用品及び農薬等の中毒情報を収集、整理し、活用している
- 院内医薬品集を作成し、必要に応じ改定し、追補を発行している
- 新規採用医薬品の情報を速やかに提供している
- 院内で収集した副作用を検討し、必要により厚労省へ報告している

5.0 医療機関からの副作用等の報告

- 下記の事例の様な医薬品の使用による事象が起きたときには厚生労働省に報告している
死亡、障害、治療のための入院又は延長が起きたとき
使用対象者の子に先天異常が認められたとき
添付文書に記載されていない事象が起きたとき など

*業務チェックは年2回(3月・9月)の医薬品の品質管理時に実施する

備考欄	医薬品安全管理 責任者印

一医薬品の安全使用のための業務チェックリスト(製剤室)一

記入者名

実施 年月日 年 月 日

設定	2008.4
改訂	2010.3

1.0 保有している設備とその保全

- かぎのかかる貯蔵設備を有している
- 冷暗貯蔵のための設備を有している
- 製剤室の明るさが十分に確保されている
- 各機器、設備は定期的に保守点検が行われ、その結果が記録されている
- 薬剤部でインターネットが利用できる
- オートクレーブを有している
- 感熱滅菌器を有している

2.0 作成している業務マニュアル

- 院内製剤調製マニュアル

3.0 劇薬

- 法規に基づいて適切に表示し保管している

3.1 在庫管理

- デッドストックを防止している
- 定期的に棚卸しを実施している
- 先入れ・先出しの原則を徹底している
- 医薬品庫及び冷蔵庫等の温度をモニターしている

3.2 供給管理

- 医薬品の品質を確認し供給している
- 注射剤も含め、必要に応じ処方せんにより交付している

【院内製剤】

4.0 特殊製剤の調製

- 医師からの依頼を受け、薬剤部(科)での製剤が可能かどうか検討している
- 院内の倫理委員会(院内製剤検討委員会等)で審議している
- 製剤の有用性及び安全性についての情報(文献等)を収集している
- 期待される有用性と考え得る危険性について処方医と協議している
- 患者使用への経費負担等について十分検討している
- 製剤の安定性等を考慮した処方設計について検討している
- 汚染及び品質劣化を防止するための滅菌装置やクリンルーム等の設備が整っている
- 品質試験を行い、品質の保証に努めている(異物混入の有無、pH試験等)
- 通常の調剤済薬剤と同様に、薬袋やラベルに適切な内容を表示して患者に交付している
- 製剤調製記録及び製剤上問題点等を記録している

* 業務チェックは年2回(3月・9月)の医薬品の品質管理時に実施する

備考欄	医薬品安全管理 責任者印

一医薬品の安全使用のための業務チェックリスト(外来用)一

実施年月日
年 月 日

1.0 在庫管理

- デッドストックを防止している
- 先入れ・先出しの原則を徹底している
- 破損処理を適切にしている
- 盗難、紛失を防ぐための対策が施されている

1.1 向精神薬・毒薬・劇薬

- 金庫等施錠可能な保管庫に保管している

1.2 麻薬

- 施錠されている
- 鍵は決められた場所に保管されている(スペアキーも含む)
- 責任者により定期的に鍵の保管状況の確認が行われている

1.3 特定生物由来製品

- 添付文書に基づいて適切に保管している
- 「特定生物由来製剤使用連絡票」を用いて使用記録をしている

2.0 配置薬

- 定期の有効期限、使用期間をチェックしている

* 業務チェックは年2回(3月・9月)の医薬品の品質管理時に実施する

外来名： 記入者名：診療科 / 薬剤師

備考欄	医薬品安全管理
	責任者印

改訂 2010.3

— 医薬品の安全使用のための業務チェックリスト(病棟用) —

実施年月日
年 月 日

1.0 在庫管理

- デッドストックを防止している
- 先入れ・先出しの原則を徹底している
- 破損処理を適切にしている
- 盗難、紛失を防ぐための対策が施されている

1.1 向精神薬・毒薬・劇薬

- 鍵は関係者のみ周知の場所に保管している

1.2 麻薬

- 施錠されている
- 鍵は決められた場所に保管されている(スペアキーも含む)
- 責任者により定期的に鍵の保管状況の確認が行われている

1.3 特定生物由来製品

- 添付文書に基づいて適切に保管している
- 使用した医薬品のロット番号を処方せんに記載している

2.0 配置薬

- 定期(3月・9月)に有効期限、使用期間をチェックしている

3.0 救急薬

- 救急薬の種類及びその数量等について各診療科と協議し、決めている
- 救急カートへの医薬品の配置や表示に工夫を施している
- 救急薬の請求伝票と在庫量を照合し補充している

4.0 患者持参薬の管理

- 持参薬への対応の仕方が確立している

5.0 リスクマネジメント

- 病棟での薬剤に関するアクシデント・インシデント事例に基づき、薬剤師と今後の対応策を協議している
- 病棟での副作用事例について、薬剤師との因果関係など今後の対応策等を協議している

* 業務チェックは年2回(3月・9月)の医薬品の品質管理時に実施する

外来名:

記入者名: 診療科

／ 薬剤師

備考欄

医薬品安全管理
責任者印

改訂 2010.3

—医薬品の安全管理のための業務チェックリスト(医長用)—

実施年月日
年 月 日

1.0 医薬品の安全管理責任者

医薬品の安全管理を確保するため「医薬品安全管理責任者」が設置されているのを知っている

2.0 医薬品の採用・購入

医薬品の採用・購入に関する事項は薬事委員会で定めているのを知っている

3.0 有害事象の報告

下記の事例の様な医薬品の使用による事象が起きたときには厚生労働省に報告している
 死亡、障害、治療のための入院又は延長が起きたとき
 使用対象者の子に先天異常が認められたとき
 添付文書に記載されていない事象が起きたとき など

4.0 医薬品情報

医薬品緊急安全性情報、医薬品等安全性情報を知っている
 薬剤部ニュース、医薬品集、印刷物(パンフレット)等の情報提供を受けている

5.0 医薬品の安全使用のための研修

医薬品の安全使用のための研修安全管理講習会を受けている

* 業務チェックは年2回(3月・9月)の医薬品の品質管理時に実施する

外来名： _____ 記入者名：診療科 _____ / 薬剤師 _____

備考欄	医薬品安全管理 責任者印

改訂 2010.3

-医薬品の安全管理のための業務チェックリスト(薬事委員用)-

実施年月日
年 月 日

1.0 医薬品の安全管理責任者

医薬品の安全管理を確保するため「医薬品安全管理責任者」が設置されているのを知っている

2.0 医薬品の採用・購入

医薬品の採用・購入に関する事項は薬事委員会で定めているのを知っている

3.0 有害事象の報告

下記の事例の様な医薬品の使用による事象が起きたときには厚生労働省に報告している
 死亡、障害、治療のための入院又は延長が起きたとき
 使用対象者の子に先天異常が認められたとき
 添付文書に記載されていない事象が起きたとき など

4.0 医薬品情報

医薬品緊急安全性情報、医薬品等安全性情報を知っている
 薬剤部ニュース、医薬品集、印刷物(パンフレット)等の情報提供を受け、知っている

5.0 医薬品の安全管理のための研修

医薬品の安全管理のための研修(安全管理講習会等)を受けている

*業務チェックは年2回(3月・9月)の医薬品の品質管理時に実施する

外来名:	記入者名: 診療科	/ 薬剤師
------	-----------	-------

備考欄	医薬品安全管理 責任者印

改訂 2010.3

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 23 回
・ 研修の主な内容： 1) 主に医療機器の使用方法に関する研修（特定機能病院における定期研修） 「人工呼吸器の基礎1」平成21年6月18日 「人工呼吸器の基礎2」平成21年6月19日 「人工呼吸器の基礎3」平成21年7月6日 「NPPV勉強会①」平成21年11月5日、平成21年11月18日、平成21年12月17日 「人工呼吸器勉強会 レベル1」平成21年12月10日 「LTV1150勉強会」平成21年12月17日 「BiPAP勉強会」平成22年1月18日 2) 新しい医療機器の導入時の研修 「保育器勉強会」平成22年2月12日、平成22年2月17日、平成22年3月4日、平成22年3月5日 「在宅用人工呼吸器Trilogy100」平成22年3月2日、平成22年3月4日、平成22年3月16日 「除細動器 ハートスタートXL勉強会」平成22年3月3日、平成22年3月4日、平成22年3月5日、平成22年3月29日 3) 主に医療機器の有効性・安全性に関する研修（特定機能病院における定期研修） 「人工呼吸器勉強会 レベル1」平成21年12月10日 4) 医療機器の保守点検に関する事項 「SCD保守点検に関する勉強会」平成21年6月24日 5) その他必要に応じた研修 「NPPV（ヘルメット）勉強会」平成22年3月15日	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 計画の策定 (有) ・ 保守点検の主な内容： 1) 人工呼吸器保守点検（8月3台実施、9月3台実施） 2) 血液透析装置オーバーホール（8月実施、9月4台実施）	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1) 院内作成のチェックリストを機器に取り付けた。 2) メーカーと連携してAEDの点検、自主回収作業を行った。	